

資料・統計

2021年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2021

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

1. 消化器外科

1. 消化器外科				非上皮性腫瘍	
				GIST	開腹
					腹腔鏡下
胃			208		2
胃癌				悪性リンパ腫	1
Staging laparoscopy			24	その他	2
切除				その他	15
全摘	開腹		15		
	腹腔鏡下		14		
残胃全摘	開腹		1		
	腹腔鏡下		9		
噴門側切除	開腹		0		
	腹腔鏡下		14		
幽門側切除	開腹		9		
	腹腔鏡下		81		
PPG	開腹		0		
	腹腔鏡下		2		
SSD・部分切除	開腹		0		
	腹腔鏡下		0		
非切除					
単開腹			0		
バイパス	開腹		0		
	腹腔鏡下		3		
その他			0		
再発					
肝転移切除			0		
卵巣転移切除			0		
リンパ節郭清			0		
局所切除			0		
腸切除			0		
バイパス			0		
人工肛門造設			0		
その他			1		
イレウス					
癒着剥離			2		
腸切除			3		
バイパス			0		
人工肛門造設			0		
胃瘻・空腸瘻			0		
腹壁癒痕ヘルニア					
修復術	開腹		1		
	腹腔鏡下		0		
				食道	
				良性腫瘍	1
				非上皮性腫瘍	0
				食道癌	32
				右開胸（腹腔鏡併用2）	3
				胸腔鏡下（腹腔鏡併用13）	23
				腹腔鏡下（下縦隔郭清あり）	1
				開腹	1
				胸腔鏡併用咽喉食道全摘	1
				遊離空腸移植	0
				食道拔去	0
				頸部リンパ節郭清	1
				腹部リンパ節郭清	0
				食道切除後2次的再建術	0
				バイパス術（試験開胸2）	2
				胃管癌	0
				胃管全切除（胸骨縦切開）	0
				胃管部分切除	0
				特発性食道破裂	0
				肝胆膵	
				107	
				肝腫瘍	
				肝細胞癌	6
				肝内胆管癌	3
				転移性肝癌	27
				その他肝腫瘍	2
				胆道癌	
				十二指腸乳頭部癌	1
				胆嚢癌	4
				胆管癌	8
				膵疾患	
				膵臓癌	20
				IPMA・MCN	1
				内分泌腫瘍	3

その他悪性腫瘍			横行結腸下行結腸切除術	2
十二指腸癌	2		低位前方切除術	1
GIST	1		ハルトマン手術	1
小腸癌	0		結腸全摘術	1
NHL	1		虫垂切除術	1
その他悪性	4		結腸良性	1
その他			(腹腔鏡下手術)	1)
胆石症・胆嚢ポリープ	23		S状結腸切除術	1
肝内結石症	0		直腸悪性	86
汎発性腹膜炎	0		(腹腔鏡下手術)	84)
ヘルニア	0		前方切除術	28
腹腔内膿瘍	0		低位前方切除術	27
腸閉塞	0		直腸切断術	13
閉塞性黄疸	0		超低位前方切除術	11
その他良性	1		ハルトマン手術	4
術後合併症	0		人工肛門造設術	1
術式			大腸全摘術	1
肝葉切除+臍頭十二指腸切除	0		非切除 (尿路再建)	1
臍全摘	0		直腸良性	0
臍中央切除	1		(腹腔鏡下手術)	0)
臍頭十二指腸切除	21		再発・転移	28
臍体尾部切除	16			(重複あり)
腹腔鏡下臍体尾部切除	0		肝切除術	15
肝切除	26		腹膜播種腫瘍切除術	4
肝門部胆管癌手術	2		卵巣摘出術	3
胆嚢癌根治術	4		鼠径リンパ節切除術	2
胆管癌手術	0		結腸部分切除術+尿管切除	2
小腸悪性腫瘍手術	2		側方リンパ節郭清術 (腹腔鏡)	1
腹腔鏡下胆嚢摘除	10		頸部リンパ節摘出術	1
ラジオ波焼灼	0		肝門部リンパ節切除術	1
腹腔鏡下肝切除	12		粘液除去術	1
その他悪性腫瘍手術	0		肝転移	15
開腹胆摘	9			(上記原発再発症例に含まれる)
総胆管切石	4		異時	11
胆道再建	0			(上記再発症例に含まれる)
PTCD/PTAD	0		同時	4
その他	0			(上記原発症例に含まれる)
結腸, 直腸手術症例	全身麻酔手術	280	その他の手術	78
	その他の麻酔手術	4		(内緊急手術 8)
原発		195	他科癌・他癌	16
結腸悪性		108	腸管切除術	10
(腹腔鏡下手術)		92)	腹膜播種切除術	3
右半結腸切除術		51	腸管修復術	1
S状結腸切除術		23	脾臓摘出術	1
回盲部切除術		8	バイパス手術	1
左半結腸切除術		7	人工肛門閉鎖術 (+再吻合)	35(1)
下行結腸S状結腸切除術		6	CVポート造設術	5
横行結腸切除術		4	CVポート抜去術	4
人工肛門造設術		3	急性汎発性腹膜炎手術 (腸切あり)	3
			急性汎発性腹膜炎手術 (腸切なし)	2

鼠径ヘルニア根治術 (+小腸部分切除)	2(1)
腹壁癒痕ヘルニア手術	2
小腸部分切除術 (腹腔鏡)	2
人工肛門造設術	1
腹腔内リンパ節生検	1
腋窩リンパ節生検	1
直腸脱手術	1
粘膜脱手術	1
肛門周囲膿瘍切開排膿術	1
気管切開術	1

2021年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道：33件（8件減少）、胃：208件（16件増加）、結腸・直腸：280件（9件増加）、肝胆膵：107件（40件増加）であった。鏡視下手術件数（割合）は、食道切除：25件（86%）、胃切除：129件（83%）、結腸・直腸切除：177件（91%）、膵体尾部切除：0件、肝切除：12件（32%）であった。COVID-19感染の蔓延に起因する新規患者数の減少が続いている。現在、手術支援ロボット導入の決定を受けて準備を進めており、がん検診の受診率が回復した際には本県の癌治療の中核として責務を果たせるよう一層の技術向上が望まれる。

(文責 消化器外科 會澤雅樹)

2. 乳腺外科

外来手術	0例
入院手術	
良性+プローベ	9例
乳癌	304例
Auchincloss	63例
Mastectomy + SLNB	133例
Simple mastectomy	19例
Lumpectomy + Ax	4例
Lumpectomy + SLNB	60例
Lumpectomy	24例
Axのみ(オカルト乳癌?)	1例
その他	
局所再発 (リンパ節, 創)	4例
乳房内再発 乳房切除	10例
乳房内再発 乳房部分切除	2例
後出血	0例
その他	5例
エキスパンダー挿入 (上記手術に算定済み)	
1次2期再建	11例

2021年の原発性乳癌手術数は304件で、昨年より5件の減少であった。乳房温存療法の割合は約29%

と昨年よりもさらに減少した。新型コロナウイルス感染は終息していない1年であったが手術数の大きな減少はみられなかった。

(集計・文責 神林智寿子)

3. 呼吸器外科

() 胸腔鏡手術

1. 気管 (支) 疾患	0
2. 肺疾患	265(245)
2-1 良性肺疾患	7(7)
炎症性腫瘍	5(5)
真菌症	0(0)
過誤腫	0(0)
肺動静脈瘤	0(0)
その他	2(2)
2-2 悪性腫瘍	258(238)
2-2-1 原発性肺癌	222(202)
全摘除	0(0)
肺葉切除	161(153)
区域切除	43(42)
部分切除	16(5)
試験	2(2)
その他	0(0)
2-2-2 転移性肺腫瘍	36(36)
大腸癌	20(20)
泌尿器生殖器腫瘍	7(7)
他消化器がん	3(3)
肺癌	0(0)
骨軟部腫瘍	3(3)
乳癌	3(3)
悪性黒色腫	0(0)
2-2-3 その他の悪性肺疾患	0(0)
3. 縦隔疾患	15(13)
3-1 縦隔腫瘍	15(13)
胸腺腫	6(4)
原発不明縦隔リンパ節癌	0(0)
縦隔リンパ節 他	9(9)
3-2 縦隔鏡検査	0(0)
4. 胸膜疾患	25(25)
気胸	8(8)
膿胸	3(3)
術後出血・膿胸	3(3)
術後肺ろう	6(6)
孤立性線維腫	2(2)
術後気管支断端瘻	0(0)
胸膜腫瘍 (中皮腫)	0(0)
肺膿瘍	0(0)
その他	3(3)
5. 胸壁疾患	0(0)

合計	305 (286)
----	-----------

原発性肺癌を含む肺悪性腫瘍手術は258例で例年とほぼ同じです。肺癌手術に占める区域切除の割合が増えてきました。

手術合併症での再手術が9例ありましたが、これをなくすためにさらに研鑽を積んでいきます。

(文責 青木 正)

4. 骨軟部腫瘍・整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	144
生検	1
良性軟部腫瘍	計 145
良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	27
切除+人工関節	0
生検	15
良性骨腫瘍	計 42
悪性軟部腫瘍	
広範切除	21
広範切除+皮弁など再建	6
切断	1
生検	0
悪性軟部腫瘍	計 28
悪性骨腫瘍	
広範切除	3
広範切除+人工関節・自家骨移植	2
切断	1
生検	3
悪性骨腫瘍	計 9
転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0
転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	8
切断	0
広範切除+人工骨頭置換	5
切除・生検	2
転移性腫瘍	計 15
腫瘍性疾患	計 239

非腫瘍性疾患

外傷	
骨接合術	8
創外固定	1
人工骨頭置換術 (股)	2
観血的関節受動術	1
観血的脱臼整復	1
外傷	計 13
感染	
デブリードマン	3
骨搔爬術 (骨髄炎手術)	0
感染	計 3
その他	
血腫除去	1
人工膝関節再置換術	0
切断 (感染, 壊死)	0
偽関節手術	0
抜釘・異物除去	6
その他	計 7
非腫瘍性疾患	計 23

総合計 262

手術件数は262件 (29件増加) であった。腫瘍性疾患は前年 (215件) よりも増加した。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍は187件 (11件増加), 悪性腫瘍数は生検手術を除くと34件 (9件増加), 転移性腫瘍は15件 (7件増加) であった。前年よりは新型コロナウイルス感染症による受診控えが緩やかになってきた影響が考えられる。近年は高齢者の悪性腫瘍も増えてきている。また, 骨転移手術が増加した。

(文責 山岸哲郎)

5. 脳神経外科

総手術件数	16
1) 腫瘍摘出術	5
悪性腫瘍	5
良性腫瘍	0
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	5
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	5
4) その他	6

オンマイヤー設置	2
定位的腫瘍生検術	2
他	2

本年の頭蓋内腫瘍摘出術は5例で、その内訳はグリオーマ1例、転移性脳腫瘍4例であった。担癌患者が対象であるため、摘出術のできる状況が少ないということから、多くの症例がノバリスによる定位放射線治療の適応となっていて、定位放射線症例は本年度51例であった。嚢胞性の転移性脳腫瘍には局所麻酔下の穿頭術により生検やオンマイヤーリザーバーの設置術を行っている。腫瘍生検やオンマイヤー留置にはナビゲーターシステムを用いて行っている。(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式単純子宮全摘出術、筋腫核出術	21
CIN3/HSIL	5
子宮筋腫	10
子宮頸癌	6
準広汎子宮全摘出術	8
子宮体癌	6
子宮頸癌	2
広汎子宮全摘術	10
子宮頸癌	10
子宮体癌	0
子宮体部悪性腫瘍手術	60
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清:準広汎子宮全摘術以上は除く)	
付属器悪性腫瘍手術	61
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+大網切除術+骨盤・傍大動脈リンパ節郭清)(卵管癌・腹膜癌・原発不明癌を含む)	
原発性卵巣癌	41
原発性卵管癌	3
腹膜癌	2
卵巣境界悪性腫瘍	12
その他	2
試験開腹術	1
子宮頸部円錐切除術	70
その他の悪性腫瘍手術	2
外陰・膣悪性腫瘍手術	2

付属器摘出術(卵巣腫瘍核出術を含む)	28
腹腔鏡下手術	38
良性卵巣腫瘍	19
悪性腫瘍に対する審査腹腔鏡	7
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	11
予防的卵巣・卵管切除術	1
経頸管摘除術(TCR)	2
子宮内膜ポリープ	1
子宮筋腫	1
子宮内膜全面搔爬	6
子宮体癌疑い	3
子宮内膜異型増殖症	3
その他	12
CVポート抜去	6
その他	6
計	318

2021年の手術件数は318件であり、昨年(328件)より約3%減となった。主なところでは円錐切除術が約20%減少しているが、腹腔鏡下手術は2倍以上増加している。また遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的卵管・卵巣切除術が2021年より保険適応となり、当院でも開始している。全体に占める悪性腫瘍手術の割合は2019年:33%から2021年:45%増加した。(文責 西川伸道)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術(小計3)	
副腎摘出術	1
腹腔鏡下副腎摘出術	2
腎腫瘍および腎の手術(小計80)	
根治的腎摘出術	24
腎部分切除術	20
経皮的腎腫瘍生検	7
経皮的腎瘻造設術	26
腎その他	3
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術(小計102)	
尿管全摘出術	32
尿管カテーテル法(留置を含む)	70
膀胱腫瘍および膀胱の手術(小計396)	
膀胱全摘出術+回腸導管造設術	11
膀胱全摘出術+尿管皮膚瘻	5
膀胱全摘出術+回腸膀胱造設術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術	372

膀胱内血腫除去・止血術	5
膀胱その他	2
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計6)	
経尿道的尿道腫瘍切除術	1
内尿道切開術	5
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計288)	
前立腺生検	274
前立腺全摘出術	12
経尿道的前立腺切除術	1
その他	1
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計15)	
高位精巣摘出術	14
その他	1
陰茎腫瘍および陰茎の手術 (小計10)	
陰茎部分切除術	5
鼠径リンパ節郭清術	1
包茎手術	4
その他 (小計5)	
総計	905手技 (859件)

2021年の手術件数は859件 (905手技) で、前年とほぼ同数であった。内訳では、前年同様、前立腺生検が例年よりやや少なく、新型コロナウイルス流行に伴う、検診や受診控えによる影響が考えられた。TURBTは増加傾向で、他の術式は例年とほぼ同等であった。(文責 小林和博)

8. 皮膚科

【悪性腫瘍】

悪性黒色腫	46
基底細胞癌	89
有棘細胞癌	71
ボーエン病	22
日光角化症	18
乳房外パジェット病	5
皮膚附属器癌	6
悪性リンパ腫	2
転移性皮膚癌	2
血管肉腫	1
メルケル細胞がん	0
隆起性皮膚線維肉腫	2
小計	264

【良性腫瘍・その他】

母斑細胞母斑	57
上記以外の母斑	35
表皮嚢腫 (粉瘤)	119
粘液嚢腫	2
脂漏性角化症	62

脂肪腫	52
皮膚線維腫	23
軟線維腫	7
良性皮膚付属器腫瘍	14
血管腫	20
血管拡張性肉芽腫	4
ケラトアカントーマ	11
石灰化上皮腫	24
慢性膿皮症	1
良性神経系腫瘍	7
疣贅	10
リンパ球腫	0
毛嚢炎	0
血管平滑筋腫	6
瘢痕 ケロイド	4
リンパ節生検	11
その他	40
小計	509

合計 773

悪性腫瘍については前年度ほぼ同数であったが、良性腫瘍その他の手術件数は40件近く減少した。コロナ禍以降の受診控えによる影響が考えられる。

(文責 竹之内辰也)

9. 頭頸部外科

舌・口腔

舌・口腔良性腫瘍摘出術	0
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	15

小計 15

咽頭

咽頭良性腫瘍摘出術	0
咽頭悪性腫瘍摘出術 (外切開)	0
下咽頭・喉頭全摘術	2
斜視鏡下咽頭悪性腫瘍手術	14
嚥下改善手術 (原発巣との併術含む)	2

小計 18

喉頭・気管

気管切開術	14
人工シャント発声手術 (プロボックス®留置)	4
喉頭全摘術	8
喉頭亜全摘術 (CHEP)	0
喉頭垂直部分切除術	0

斜視鏡下喉頭悪性腫瘍手術	15
小計	41
頸部	
頸部廓清術 (原発巣との併術含む、片側を1とカウント)	46
小計	46
甲状腺	
甲状腺良性腫瘍摘出術	15
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	44
小計	59
耳下腺	
耳下腺良性腫瘍摘出術	10
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1
小計	11
鼻・副鼻腔	
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
小計	0
再建手術	
腹直筋(遊離)	0
前外側大腿皮弁(遊離)	3
前腕皮弁(遊離)	2
空腸(遊離)	2
大胸筋皮弁(有茎)	4
前胸壁皮弁(有茎)	0
局所皮弁	0
小計	11
末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)	24
その他(リンパ節生検, 気管切開など)	30
合計	255

2021年度の手術件数は255件で、前年比10件の減少だった。再建(遊離あるいは有茎)を要する拡大手術は11件(前年比4件の増加)だった。低侵襲の斜視鏡下経口的手術は29件で、前年比19件増加した。そのうち咽頭悪性腫瘍手術が14件で前年比6件

増加し、喉頭悪性腫瘍手術が15件で前年比13件の増加だった。一方で甲状腺良性腫瘍摘出術は15件で前年比44件の減少だった。上記以外の術式には大きな変化はなかった。甲状腺手術は新型コロナウイルス感染症による検診と受診控えによる減少傾向と思われたが、それ以外の頭頸部癌は大きな影響を受けていなかった。コロナ禍が継続している2022年も同様の傾向を見込んでいる。(文責 富樫孝文)

10. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	53
乳房再建用エキスパンダー挿入 (一次11症例, 二次4症例)	15
乳房インプラント挿入 (一次二期12症例, 二次二期2症例)	14
乳房エキスパンダー抜去	1
乳房インプラント抜去	2
乳輪乳頭作成	3
有茎皮弁	5
遊離皮弁	8
植皮	1
良性腫瘍切除	4
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド	11
瘢痕拘縮形成術	11
その他	12
血管移植	1
眼瞼下垂	3
腋臭症手術	1
その他	7
計	76

他科との手術は28症例、手術の約37%であり、乳腺外科、頭頸部外科、整形外科と手術させていただいています。乳房再建関連手術は32症例でした。使用中止となった乳房インプラントを使用している方で乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫(BIA-ALC)の発生を心配し、乳房インプラント抜去を行った方が2名いらっしゃいました。現在は、BIA-ALCL発生のより少ない乳房インプラントを使用しております。以前の乳房インプラントの抜去や新しい乳房インプラントへの入れ替えは勧められてはおりません。しかし、今後も抜去や入れ替えご希望の方は若干名いらっしゃると予想されます。引き

続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み、患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。(文責 坂村律生)

11. 眼科

水晶体再建術：眼内レンズを挿入する場合	122件
水晶体再建術＋緑内障手術	4件
緑内障手術	11件
腫瘍手術	3件
硝子体注射/注入	24件
その他	2件
合計	166件

3月までは昨年同様、手術件数は増加傾向を示していたが、新型コロナウイルスの蔓延によって全国緊急事態宣言が発令された。日本眼科学会をはじめとする、各専門領域の眼科学会の勧告、病院内の感染対策会議の提言を受け、不急の手術の中止、延期により手術件数は大幅に減少した。

また、7月は東京オリンピック開催にともなう、本来の祝祭日の急な変更によって、手術日が想定外の変更となった。さらに、コロナワクチンの接種間の手術延期が指示され、あらたな変異ウイルス株の蔓延も加わり、手術予定の修正を余儀なくされた。

相変わらず1名による手術体制であるが、手術の種類が多岐であり、難易度の高い症例も多く、他院から紹介される手術対象患者の比率も大きいためコロナの終息が待たれる。(文責 原 浩昭)